福岡 地域福祉活動職員の まなこ
地域福祉活動推進のために
No. 78　２０１５年３月発行　福岡県地域福祉活動職員連絡会

自分たちの地域をもっとよくするために

自主研修補助事業　主体的に学びの場をつくる

福岡県地域福祉活動職員連絡会では、2014 年度から「自主研修補助事業」を新設しました。一定の条件を満たせば、自己研鑽のための自主研修に補助金を出すというものです。今年度はこの事業を活用して、①「ファシリテーターと学ぶ理想の話し合いとは」（若手ワーカー企画）、②「社会福祉協議会とコミュニティワークについて考える社協中堅職員のつどい」（中堅ワーカー企画）の、2つの研修会が開催されました。

自主研修①　ファシリテーターと学ぶ　理想の話し合いとは

とき　2014年12月13日（土）
報告　伊藤拓也さん／筑後市社協

ファシリテーションの正解とは？

「会議」「打ち合わせ」「座談会」社協ワーカーは様々な場面で話をまとめ、より良い方向へ参加者と共に導いていくスキルが求められます。

そこで出てくるのは冒頭の疑問。とりわけ若手職員に関しては、終了後も「これでよかったのだろうか？」というモヤモヤとした感情を抱くことも多いのではないかと思います。

今回の研修は、そのような若手職員が不安を少しでも解消し、明日からの社協活動に自信を持って取り組むために企画したものです。

当日は、まず参加者の経験から「良い話し合い」と「悪い話し合い」を出し合い、その中から「良くなった要素」「悪くなった要素」を確認。その後はファシリテーションの場面を時系列に沿って「準備」「共有」「拡散」「収束」「行動」の5つに分け、「福祉計画策定委員会議」「ボランティアイベント実行委員会」など実際に体験したケースを再現し模擬ファシリテーションを行い、それに対し参加者同士で感想や改善点を出し合いました。

「できなかった経験」だけで終わらなかったのが今回の研修のポイントだと感じています。客観的な意見から、ここは良くて、ここは改善すべきという点が明確になりました。このように普段の活動の中で、自分の活動に助言をもらえる機会は貴重です。

今回の研修では、自分のファシリテーションへの意見が書かれたホワイトボードを参加者が写真に撮っている様子が印象的でした。

本研修会のみで、ファシリテーションが全て分かったというわけではなく、むしろここがスタート地点で、これからはそれぞれの社協活動を通して経験値を積み、今回の学びに上乗せできればと思っています。

また研修後は参加者（若手職員）で懇親会を行い、様々な情報交換も行うことができました。

自主研修②
社会福祉協議会とコミュニティワークについて考える社協中堅職員の集い

とき　2014年9月9日（火）
報告　建部正雄さん／香春町社協

コミュニティワークの実践力向上を目指して
中堅職員向け事例検討会を実施

9月9日、福岡県立大学にて中堅職員を主な対象とした事例検討会を実施しました。

地域福祉課題の解決に向けて、ワーカーがどのように動いていくか。各事例において、ワーカーの立ち位置や役割を確認しつつ、どのように地域へ働きかけていけば良いか等、参加者間で議論しました。

また、今回の事例検討会では、兵庫県宝塚市社協の運営モデルを参考に進行させていただきました。

事例内容とご登壇いただいたワーカーにつきましては次のとおりです。

事例内容及び報告者
①「福祉マップづくりを通じて発生した個人情報保護の問題」
（池本賢一さん／鞍手町社協）
②「限界集落におけるゴミ収集の問題」
（中村麻衣さん／上毛町社協）
③「ゴミ屋敷問題への対応について」
（石田智也さん／福岡市博多区社協）
④「社協事業の利用者と世帯員への支援」
（中嶋芳恵さん／うきは市社協）
⑤「福祉教育推進上の課題と対応」
（亀津剛史さん／大野城市社協）

今後も継続して事例検討を行い、ワーカー同士の相互作用によってコミュニティワークの実践力を高めていけたら…と考えています。

【自主研修事業条件】（以下の全ての項目を満たすもの）①社協ワーカーの資質向上やつながりづくりを目的として開催されること、②参加呼びかけを県内全体に行うこと、③開催要項（案）と予算（案）を開催日1か月前までに会長に送付し、承認を得ること、④研修参加者が3社協6名以上であること。※上限は1回あたり5万円。

「絵に描いた餅」に終わらないために
地域福祉活動計画への思いと工夫

コミュニティワーク研究会2014③

●発表者：舟木浩介さん／みやま市社協
　　藤田博久さん／福岡市社協
●助言者：村山浩一郎さん／福岡県立大学　准教授
●報　告：池松昌亀さん（大刀洗町社協）
と　き：2014年9月20日（土）
ところ：みやま市社会福祉協議会

福岡県内市町村社協活動指針によると、地域福祉活動計画の策定について、平成26年4月現在福岡県内40％以上の市町村社協で「策定済」とありますが、「未策定」の社協が60％弱あり、その内半数の社協が「策定の予定はない」と回答しています。

活動計画策定のためのアクションそのものが社協の役割であり、見える化の一つでもあるという考え方の反面、地域・社会の状況が大きく変動する現状では長期的な計画よりも年度ごとの事業計画に力を入れたいという意見もあります。

今回のコミュニティワーク研究会では、地域福祉活動計画を策定する意義を検証しました。

「絵に描いた餅」に終わらないために
地域福祉活動計画への思いと工夫
●みやま市社協　舟木浩介さん

■計画策定までの経緯

みやま市は平成19年、当時の瀬高町、山川町、高田町が合併し誕生しました。その3年後の平成22年に市福祉事務所より地域福祉計画の策定に伴い、地域福祉活動計画の策定を打診され、一緒に策定する運びとなりました。

基本的な策定方針については、策定

期間を2か年とすることや、プロジェクト委員会・策定委員会の組織、地域福祉計画・活動計画を合冊での作成、策定にかかる経費の取り決めなどを行いました。

■策定のながれ

策定の流れとしては市民を対象としたアンケート調査の実施と座談会（市民ワークショップ）を実施しました。

座談会については、小学校区ごとに2回ずつ実施しました。ただし、参加者の呼びかけをしたのが校区社協であったため、いつも集まっているメンバーが中心となり、その多くが高齢者福祉に関わる方だったため、子育てや障害に関する意見があまり出ることがありませんでした。そこで、急遽追加で「子育て福祉関係者座談会」と「障がい者福祉座談会」を実施することで、当初よりも幅広い層の意見を聞くことが出来ました。

その後、アンケート調査結果と市民座談会での聞き取りを踏まえ、平成25年4月にみやま市地域福祉計画・地域福祉活動計画が施行されました。

■施行後の取り組み・活用

施行後、平成25年度を計画の周知の年とし、市校区社協連絡会、地区（旧町）校区社協連絡会、校区社協連絡会との流れで計画説明会を実施しました。説明会では、福祉事務所の担当職員が計画の概要と位置づけ、社協職員が計画の具体的な内容を説明しました。

しかし、実施後の意見としては、予算的な裏付けや幅広い世代への説明の必要性、そして具体的に地域が何をすべきかが分からないという意見をいただきました。ただし、基本的に行なっている社協の活動が計画に盛り込まれているので、「行政も認めてくれた活動」と強調して伝えることできることと、反対に行政と一緒に策定した計画なので、行政に対しても話を聞いてもらえる関係性が出来たのではないかと思います。

また計画の評価については、年に1回「地域福祉計画協議会」を開催し、活動計画とともに評価を行っています。

■計画について思うこと

行政と一緒に策定を行った計画に基づいて社協が活動しているということを地域に伝えることによって、社協の役割や地域福祉の考え方を知ってもらえる機会となり、計画はその伝えるためのツールであると捉えています。

また、社協内部の連携という面でも、係を超えた連携はもちろん、係内での共通意識を持てたのは計画の策定と説明会の開催の賜物だと考えます。

今後は、計画に挙げていた「地域座談会」を実施し、地域住民の皆様に身近な課題やそれを解決するための手段を自分たちで考えていくこと、そしてそういった課題に一緒に取り組む「社協」という存在を知ってもらいたいと考えています。

地域福祉活動計画の必要性と福岡市社協の取り組み

●福岡市社協　藤田博久さん

■計画と地域福祉の計画

まず計画とは、理想と現実を結ぶ作業であります。どんな地域づくりを目指すのか。どんな地域像を描くのかということが中心となってきます。それと同時に、様々な地域の活動があっての今ですから、今だけを見ていく作業ではなく、過去、そして将来を見据えてどういうことをやっていくのかということになります。

福岡市では、現在小学校区単位での福祉のまちづくり計画を立て始めています。小地域単位の計画を積み上げて、自治体単位の計画を策定するという方法があります。校区単位で特徴は違うと思いますが、自治体単位で策定すると、どうしても全体的なものになり当てはまらない地域が出てきます。そういった特徴をどれだけ踏まえて総合的な計画にしていくかということが大きなポイントになってくるかと思います。

社協の真価は、住民組織化の広がりと深さによって決まるものであり、そのことをいかに計画に盛り込んでいくことができるかということが重要です。

地域住民は日本人だけじゃない。「子育てサロン日本語教室」の取り組み

コミュニティワーク研究会2014④

●発表者：髙橋英志さん／福智町社協
　　大隈信幸さん／福智町社協
●助言者：村山浩一郎さん／福岡県立大学　准教授
●報　告：髙木理絵さん（志免町社協）
と　き：2014年11月21日（金）
ところ：直方市社会福祉協議会

今、地域にどのような課題があるのか。それは、社協ワーカーが常に意識しておく必要があるものです。つまり、ワーカー自身が課題に気づけるかどうかが、地域福祉の推進において大きなカギとなります。

今回福智町社協より、外国人支援の取り組みを学びました。外国人はどの地域にもいます。今回の研修は、「私たちの地域にも外国人が抱える課題があるのではないか」そんな、気づきの場にしていく必要もあるのではないでしょうか。

■課題を課題として捉える

福智町は人口約2万5千人、高齢化率29％の町です。その中で外国人登録者は約100名、留学生は少なく、仕事や結婚を契機に定住した方が半数を占めています。

乳幼児健診の中で問診票を書けない外国人の方をみた町保健師から相談を受けたことをきっかけに、平成14年、子育てサロン日本語教室を立ち上げたそうです。町内で児童虐待の事例があり意識が高まっていたこと、全社協の児童虐待防止事業の補助金を獲得できたことなども、事業の立ち上げを後押しした大きな要因とのことでしたが、地域にある課題を「課題」として捉え、行動にうつすことができた職員がいたからこそ実施できたのだと感じました。

■日本語教室を通して困りごとを拾い上げる

活動内容は、①日本語が分からないために生じる生活課題を解決するための「日本語教室」、②子育て支援センター・町保健師・学校等と連携を図った「子育て支援」、③日本そして参加者の母国文化の発信や文化交流する場である「外国人同士・地域住民との交流」、④「相談支援」を行っておられます。

事業を進める中で重要視されているのが「相談支援」で、「日本語教室等はあくまでニーズキャッチの場であり、社協としてやりたい部分は相談支援である。相談を通じて困りごとをひろいあげることが重要であり、少数でもほそぼそと続けていきたい。」と発表者の思いを聞くことができました。

■複合化した課題・・・長期的・継続的関わりが重要

コメンテーターの村山先生からは、「地域の課題が複合化しており、総合的・包括的支援が必要となってくるが、制度横断的な連携ネットワークでの支援だけでなく、時間軸でみた長期的・継続的関わりの両方の視点をもつことが必要である」「課題が深刻になる前に対応する等の予防的支援も必要である」との助言もいただきました。

■研修には積極的に参加する

今回のテーマである「外国人支援」。誰もが安心して暮らせるまちの・誰もが・には、もちろん外国人の方も含まれるはずですが、積極的に外国人支援をしている社協はあまりないのではないでしょうか？また、外国人支援の必要性を感じつつも既存事業で手が回らない、そもそも必要性を感じない・・・そんな職員の方もいらっしゃるのではないでしょうか。

志免町も人口約45，000人のうち350人ほど外国人の方がいらっしゃるものの、貸付事業以外ではほとんど相談を受ける機会もなく、自分が担当している事業と直接的な関わりもないため、あまり気がすすまず参加したことを覚えています。

しかし、研究会を受け2か月経った頃、スクールソーシャルワーカーとケースワーカーから、「外国人のお子さんが、日本語が分からないため学習が遅れている。下校後の居場所もなく自宅に引きこもりがちで心配している。社協で何かできないか」と相談を受けました。

その時は必要ないと思っていても、研修がいつ、どのような形で活きてくるかは分かりません。もしもの時のためにも、研修には積極的に参加することが大切だと感じました。

寄稿①

「大変になるからやらない」ではなく 皆で補い合って地域福祉を進める

～京築地区社会福祉協議会連絡協議会の取り組み～

●京築地区社会福祉協議会 事務局 古賀靖教さん（刈田町社協）

▲全体研修会「精神障害者に関する理解と地域生活支援」の様子。

地域福祉活動推進のための 京築地区社協連絡協議会

京築地区（行橋市・豊前市・苅田町・築上町・みやこ町・吉富町・上毛町）の社協では、平成18年に、京築地区社会福祉協議会連絡協議会（以下、連絡会）を立ち上げました。

連絡会の趣旨は、①各社協の運営並びに地域福祉活動に関する情報交換、②地域福祉活動推進のため、各社協合同による事業の展開、③各社協の基盤強化と財源の確保対策等の目的を達成することです。

地域福祉担当職員会議は月1回 全体研修会を年1回

具体的な活動としては、まず地域福祉担当職員が毎月1回地域福祉担当職員会議（第3金曜日14時～）を行っています。各社協の取り組みの報告や課題を出し合い、互いにアドバイスをしたり、参考にしたりしています。また、各社協の広報紙も必ず持ち寄り批評をしあっています。

また、全職員を対象にした全体研修会（年1回開催）や学習会（年3回程度開催）・視察研修の企画等について話し合っています。県社協の担当者も必ず出席してもらい、先進社協や県社協事業などの情報提供・課題への意見をしてもらっています。

各社協から課題を出し合う。 会長も社協の今後に危機感

会長・事務局長もそれぞれの会議をもっています。今年度、会長会議は9月20日に行われました。朝10時30分から各社協の課題を出し合い、午後はその中からいくつか抽出し協議しました。

主には、社協の仕事量の増大に伴う職員の増加が出来ていないことや社協の活性化・職員の資質向上等について協議しました。

そしてこの日はそのまま全体研修会と懇親会にも参加、会長の皆さんにはかなりハードスケジュールとなりました。会長の皆さんも社協の今後に危機感をもって前向きに取り組んでいただいています。

事務局長同士も集い情報交換 気軽に話し合える関係。

事務局長会議は年3回開催されます。今年度は7月と12月に開催しました。

7月の会議では、生活困窮者自立支援法に関してや日常生活自立支援事業・総合相談窓口について、12月の会議では、各社協の平成27年度事業構想と補助金や委託金の現状と見通しについて情報交換をしました。

今までは事務局長同士が集い気軽に話し合う場はなかったので、やはり情報交換できることで様々な考えに触れることが出来、またより良い方策も見つけられるととても好評のようです。

全体研修会では、 精神障害者支援を学ぶ

情報交換会以外にも、年1回の全体研修会や担当者毎の学習会も実施しています。全職員を対象とした全体研修会を、今年度は9月20日に、九州産業大学の倉知延章教授を招き「精神障害者に関する理解と地域生活支援」について講演して頂きました。

今、どの社協も精神障害者との関わりが増えてきています。精神障害者の支援を社協として、地域としてどうしていくのかについて、京築社協全ての職員で学ぶことを目的としたものです。倉知教授からは、医療機関のみの支援ではなく地域の支援が最も重要であることや、「日常生活自立支援事業」や「生活福祉資金貸付制度」による援助の必要性、インクルーシブルなまちづくりへの期待がかけられました。夜は倉知教授も交え懇親会でさらに交流を深めました。

担当者ごとのつながりを深める 担当職員ごとの学習会

担当職員毎の学習会では、地域福祉担当職員が年3回、経理担当職員が年1回学習会を実施しています。今もっとも気になる課題に対して担当毎に学

ぶ機会を作ることを目的としています。

地域福祉担当職員学習会では、「福岡県内市町村社協活動指針」についてや、「ボランティア活動における無償・有償の境」について学習したり、近隣のフリースペースを見学にいったりと、あまりかしこまらず気軽に担当職員同士で学び合えればと思います。

経理担当者も毎年1回県社協の職員を講師に招き、研修会をしています。担当職員ごとの研修テーマは、それぞれが積極的に提案してもらい、原則として提案内容で研修と企画するようにしています。担当者同士のつながりを深める機会として活用してもらえています。

来年度は介護保険の改正があり、社協ケアマネジャー同士で情報交換したいとの声があり、学習会の開催も考えています。

広域での取り組みも視野に。検討や学習を進める。

もう一つ連絡会として取り組みを検討している事があります。それは、「災害」や「発達障害」・「ひきこもり・不登校」・筑後市社協の卜部さんから影響を受けた「きょうだい会」・「生活困窮」・「地域包括ケア」等、広域での取り組みを視野に入れて検討や学習をしていこうと話し合っています。

以上、連絡会での取り組みを紹介してきました。特段珍しい取り組みをしているわけではありませんが、今後も積極的に情報交換し合い、課題を共有しながらお互いに力を合わせ一歩でも二歩でも前に進んでいけるよう頑張りたいと思います。

最後に、連絡会の事務局は1年ごとの持ち回りとなっています。京築社協の事業が活発になると事務局の仕事量が増え、職員の少ない社協には重荷になります。そこで、事務局だから全てをしなければいけないのではなく、事務局以外の社協で研修や学習会等の担当を別に決め、事務局は最後のとりまとめだけしてもらう等の配慮をしながら、皆でやっていこうと話し合っています。

大変になるからやらないではなく皆で補い合っていく、きっとこういうところが連絡会の一番いい所なのかなと思います。

「まなこ」に寄稿しませんか？

「みんなに知ってほしい」「今こんなことに頑張っています（悩んでいます）」など、お気軽に原稿をお寄せください。

県内外問いません、研究者の方もＯＫです。

問合せ　筑後市社協（担当：卜部）
TEL 0942-52-3969

寄稿②

地域にある福祉課題へ取り組むために
～不登校・ひきこもり支援～

●藤野圭亮さん（久山町社協）

自分のまちにも声なき声がある

私が「不登校・ひきこもり」という課題に目を向けるきっかけとなったのは、2年前に地職連で開催した研修「社協は『ひきこもり』に向き合っていますか？」でした。

ひきこもりの方の課題はなかなか見えにくものです。しかし、社協の別の事業で関わっている方から「実は子どもがひきこもりで・・」と言われました。そしてそのことを職場内で話すと、「実はうちの近所にもひきこもりの人がいる」とある職員が言いました。

久山町にもひきこもりの方はいる…、しかしどのようなアプローチをしていく必要があるのか課題でした。

嘉麻市社協での取り組みを視察

嘉麻市社協では、ひきこもり支援として勉強会や家族会を組織化され、今年度からフリースペースにも取り組まれています。本会においても、組織内で一体となり、取り組む必要があったため、役職員で嘉麻市社協「寄ってこハウス」へ視察に伺いました。

勉強会や家族の集いを開催される中で、ひきこもられている方が地域に出ていく居場所がなく、どんな居場所があればいいのかということを考えていくことで親の会が組織化され、親の会が主体となり、フリースペースを運営されていました。

当日は親の会の皆さんもからも貴重なお話をしていただき、これまで支援を行なえていなかった、ひきこもり支援の必要性について組織全体で考えるきっかけとなりました。

今後の取り組みとして

社協で把握したひきこもりの方2名。特別にアウトリーチを行ったわけではなく、普段の地域福祉活動を行いながら把握できたものです。しかし、本当はもっとたくさんおられるのでは・・。

来年度は、嘉麻市社協のように、勉強会や家族への支援等を行いながら、実態調査も検討しています。そして、居場所づくりや就労支援等、入口から出口までの支援の仕組みを関係機関等と連携しながら取り組むとともに、家族だけの問題ではなく、地域全体の課題として住民のみなさんに問題提起していきたいと考えています。

★社協ワーカー仲間の「今こんなことを思っています！」

「私の思いをみんなに聞いてほしい！」「私こんなことに悩んでいます！」「今こんな取り組みをしています！」等々、まなこへあなたの記事を掲載しませんか？お気軽に事務局へ投稿してください。

地域の「想い」を「カタチ」に

～地域に寄り添える区社協を目指して～

博多区社協
武藤正憲

博多区社協に着任し、2年が過ぎようとしています。この間、様々な個別支援・地域支援を行ってきました。中でも、印象に残っているのは、区社協で力を入れている「生活支援ボランティアグループの立ち上げ」を目標に地域福祉座談会を企画し、実践できたことです。

企画する中で校区社協の方と、何度も座談会の目的や内容などを議論しました。さらに、区社協職員で役員会での内容を共有し、知恵を出し合い、次回の役員会で提案することを繰り返しました。

そうすることで、地域の方と区社協職員みんなの想いが詰まった座談会を実施することができました。座談会がきっかけで結成されたグループは、地域の方の想いも人一倍強く、活動しているメンバーの納得度も高いため、今も強い絆で結ばれています。

これからも町内単位でのグループの結成に向けて、皆さんが楽しみながらアイデアを出し、合意形成ができる会議の進め方を勉強していきます。

攻めの姿勢で！

みやま市社協
松藤光穂子

みやま市社協に入って早くも1年が経とうとしています。この1年は右も左も分からず、ただただ周りの皆様の情熱に圧倒されてばかりでした（笑）最近はこの職業の面白さがようやく分かってきたところです。

「地域」には様々な人が住んでいて、10人いれば10通りの考えや思いが存在します。地域に関わるとき、まずはその10通りの思いをまず知ることから始まる。その思いを汲み上げ、次のまちづくりにつなげていくことが、「社協」という場所の役割なのかな？と、最近ぼんやりと思っています。

この1年、たくさんの人に出会い、多くのことを勉強させていただきました。来年度は1人でも多くの方々の笑顔を見ることができるように、1年間学んだことを活かし、攻めの姿勢で日々の業務に当たりたいと思います！

また多くの皆様にはいろいろとご迷惑をお掛けすることと思いますが、どうぞ温かい目で見守っていただければうれしいです。よろしくお願いします。

自分のスタイルをつくる！

みやこ町社協
中村圭太

入職して早くも1年が経過しました。この1年間は私にとって非常に濃い1年となりました。

地域福祉の仕事は、行う事業も多岐にわたり、目の前のやらないといけない仕事と向き合うことで精いっぱいで、中々振り返る時間を取れませんでした。しかし、大きな講演を開催した後のアンケートの確認作業や、サロンで顔を覚えてもらって声をかけられた時など、あまり経験したことがないような満足感や充実感を得られました。

サロンのご飯は楽しみな時間のひとつで、とてもおいしく入職後10kg太りました（笑）。体型だけでなく、前年1年でたくさんの研修に出させてもらったことで多くの勉強をさせてもらい、知識も増えました。

幸いにもみやこ町の先輩はもちろん近隣の社協にも素晴らしい先輩方がいます。みんな信念を持ってやっているなと感じます。研修等でまだまだ勉強しながら、自分のスタイルを地域住民の方とともに作っていきたいと思っています。

地域に貢献できるワーカーに

鞍手町社協
内山直美

児童関係の事業を主に担当していますが、全てにおいて緊張の連続でした。

福祉教育では、子どもたちに限られた時間で、いかに興味を持ってもらい、かつわかりやすく説明するか、ということに気を付けました。毎年恒例の夏休みの事業後に反省と見直しを行い、これまで先輩が行ってきたものをさらに発展させる形で、来年度の事業案を任せていただけることになりました。企画案には上司も理解を示してくれ、また、先輩には多くのアドバイスをいただきました。初の試みのため、どんな結果になるかわかりませんが、子どもたちの記憶に残るものとなるよう全力で取り組みます。

また、社会人としても1年目で、失敗も多々ありました。しかし、その度にたくさんの方からフォローしていただき、感謝しています。

次は2年目。一人前にはほど遠いですが、事務所の先輩をはじめ、県内で活躍されている先輩方を見習って、地域に貢献できるワーカーになれるよう頑張りたいと思います。

福岡県地域福祉活動職員連絡会

2015年度 総会のお知らせ

今年度の総会を下記の日程で開催いたします。ご出席・活発なご議論をよろしくお願いいたします。

とき 2015年5月1日（金）
13時30分～14時30分

ところ クローバープラザ
（501研修室）

内容 2014年度事業報告・決算報告
2015年度事業計画・予算案
役員について、その他

【問合せ】
■福岡県地域福祉活動職員連絡会
（事務局／志免町社協　担当：宿利（しゅくり））
〒811-2202　志免町大字志免451番地1
TEL 092-937-3011　FAX 092-936-9067
E-mail：chiiki02@shime-shakyo.or.jp

総会の後は・・・
社協・地域福祉研修会

＝地域に取り残された課題を考える＝

地域にはどのような課題が取り残されているのか。社協活動の基本であるニーズキャッチをベースにこれからの社協活動を考えます。

とき 2015年5月1日（金）
14時30分～17時30分

ところ クローバープラザ
（501研修室）

講師 村山浩一郎先生
福岡県立大学　人間社会学部
社会福祉学科　准教授

問合せ 県地職連事務局へ（左記参照）

編集後記
―編集者のつぶやき―

「脳に異常があるようです。水頭症の可能性があります」

里帰り出産予定の病院に初めて受診した時、ドクターにこう言われたのが昨年12月のことでした。お腹の子に異常があるかもしれない。正直ショックでした。

我が子は生きれるのか。そんなことを思い、心配な日々でした。

そしてこんな気持ちにも・・・。

産まれてくる子を愛すると決めていたはずなのに、障害者福祉に関わりたいと社協活動に取り組んできたはずなのに…。ショックを受けた自分が情けなかった。お腹の子は「自分を生きよう」と待ち構えているのに、その姿を見てもいないのにショックを受けてしまったことが申し訳なく、さらに水頭症の方にも申し訳ない気持ちになっていました。

そんな中、近所の産婦人科に紹介してもらい、1月にA大学病院に行きました。スタッフの方は「不安な年末年始でしたね」と言われました。そして検査の結果は「異常なし」。

しかし後日、出産予定の病院での検診では「異常があるのは確実。B大学病院に行ってください」とドクター。

今度はB大学病院へ行くことに。ドクターはまずはじめに「心配ですね」と言いました。そして、検査をすると、結果はやはり「異常なし」というものでした。

その結果を受けて、出産予定の病院を変更することにしました。

それは、異常がないのに、「異常がある」と言われたからではありません。私たちの思いに寄り添ってくれる病院で産みたいと思ったからです。

葛藤し、悩み、心配し、不安でした。病院に振り回され、色々なことを考え、疲れていました。そんな中、「不安な年末年始でしたね」「心配ですね」の言葉に、私たち夫婦は救われる思いがしました。

今回の出来事は自分自身の未熟さを痛感させられるものでした。

そして、優れた支援が提供できたとしても、相手の不安な思いに寄り添うことが前提にないといけないんだな・・そんなことを思った経験でした。（U・Y）

★発行者
福岡県地域福祉活動職員連絡会
★事務局
〒811-2202
福岡県糟屋郡志免町大字志免451番地1
TEL 092-937-3011
FAX 092-936-9067
E-mail chiiki02@shime-shakyo.or.jp
URL http://www.geocities.jp/f_chishokuren/